

カメセミナーS-5

日本におけるカミツキガメの定着

小林 頼太 (新潟大学 朱鷺・自然再生学研究センター)

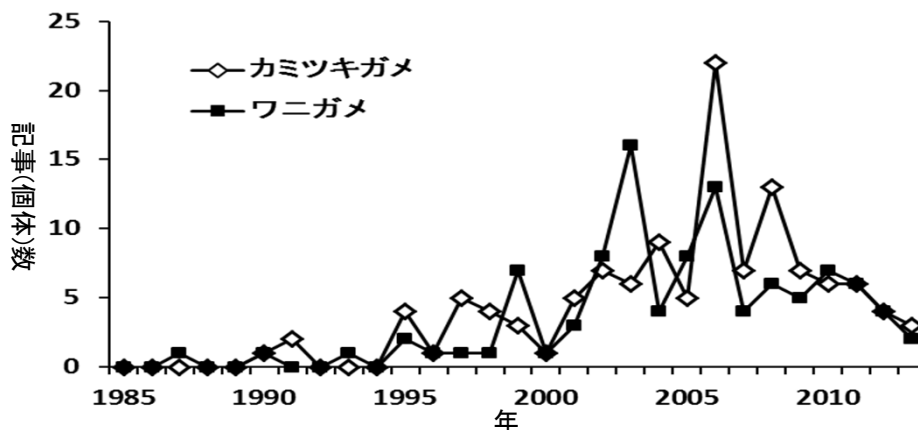
Establishment of Snapping turtle in Japan

Raita KOBAYASHI (Center for Toki and Ecological Restoration, Niigata University)

カミツキガメはアメリカ原産の淡水性カメ類であり、日本へは主にペット目的で輸入されていた。米国からは1990年代中後半には少なくとも年間2万頭近いカミツキガメが輸出されていた。例えば1997年の輸出先は半数弱が日本向けであり、最大の輸出相手国であった(Franke and Telecky,2001)。カミツキガメは、2000年以降、動物愛護法や外来生物法により、飼育が規制されたが、相当数の個体が輸入されていたことは推察できる。

野外でのカミツキガメ情報は、飼育者の放棄や逃出するタイミングや場所が予測できないこと、主に水中で活動することから、状況把握が難しい。しかしながら、野外で発見されると、新聞等で報道されることがあり、おおまかではあるが、野外個体の傾向を推察する資料となり得る。そこで、この発表では、野外からのカミツキガメ発見の情報を収集した。1985年から2013年にかけて全国紙A社のデータベースで野外でのカミツキガメ発見を報じる記事から、個体情報を収集した。その結果、記事数(概ね個体数)は2005年の外来生物法施行前後をピークに近年は減少していた。外来生物法施行により、新たな供給がなくなったことが主要因のひとつとみられるが、“報道側の記事としての価値”や“通報者の慣れ”等も考えられ、法律との関係性は、実際の回収記録を踏まえてより長期的にみて判断する必要があるだろう。また、新聞各社の報道記録から、これまでに繁殖が知られる千葉県印旛沼、東京都内公園に加え、静岡、神奈川、大阪などで近年の野外繁殖に由来するとみられる幼体が見つまっている。これまでに、同一水系の狭い範囲で複数の成体サイズが捕まることが、秋田、福島、新潟、埼玉、東京、千葉、神奈川、愛知、滋賀等から報告されており、外来生物法施行後も日本国内でのカミツキガメの定着危険性は引き続き楽観視できない状況と言える。

引用文献: Franke J. and Telecky T.M. 2001. Reptiles as Pets: An Examination of the Trade in Live Reptiles in the United States. Humane Society of the United States, Washington,DC. 146p



野外からのカミツキガメ発見記事の年変化

全国紙A社の野外からの発見記事(個体)。繁殖地域では年、数に関わらず最初の報道のみをカウントした。